［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　平成20年7月31日

【評価実施概要】

事業所番号	3290400138
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	出雲ケアセンターそよ風
所在地 （電話番号）	出雲市今市町876－9 （電　話）0853-20-0950

評価機関名	財団法人　出雲市ひらた福祉公社		
所在地	島根県出雲市平田町2112－1　平田福祉館2階		
訪問調査日	平成20年5月23日	評価確定日	平成20年7月31日

【情報提供票より】（20年　5月12日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　19　年　8　月　1　日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	16　人	常勤　11　人，非常勤　5　人，常勤換算　8.1　人

（2）建物概要

建物形態	(併設)／単独	新築／(改築)
建物構造	鉄筋　造り	
	3 階建て の　3 階　～　3 階部分	

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	40,000　円		その他の経費（月額）	15,000　円
敷　金	有（　円）		(無)	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　120,000　円） 無		有りの場合 償却の有無	(有)／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,170　円			

（4）利用者の概要（　5月12日現在）

利用者人数		16 名	男性　1 名	女性	15 名
要介護1		2　名	要介護2	8	名
要介護3		3　名	要介護4	1	名
要介護5		0　名	要支援2	0	名
年齢	平均	85.8 歳	最低　78 歳	最高	96 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	山尾医院、出雲市民病院、斉藤歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成19年8月に建てられたこのホームは、出雲市の中心部に位置することの利便性とともに、昔から残る町並みからの「懐かしさ」、近くを流れる高瀬川からの「自然」など、それぞれの情景を感じることができる場所に立地している。
運営する法人は、全国各地で事業を展開しており、職員の規則や運営方針等は全国統一であるものの、このホーム独自での理念構築など、地域密着という点を重要視し、町内行事の参加や、自治会加入など、この地域の文化や習慣を大切にしたホームを作り出そうと取り組んでいる。
開所して1年足らず、当初は度重なる管理者交代など、利用者への影響を与えかねない面も多かったが、それも徐々に沈静化し、利用者の利益を第一に考え、かつより地域との連携を図ろうと、積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 新規事業所のため、外部評価は受けていない。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** ホームとして外部評価を受けることが初めてであり、外部評価についての勉強会を行ったり、職員全員で自己評価を行うなど、管理者、職員ともに評価の意義を理解している。またこの評価を糧とし、より質の高いホーム作りを行おうとする強い姿勢が感じとれた。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 行政関係、住民、入居者代表等をメンバーとし、2か月に1回定期的に開催している。ホームの活動状況の報告をはじめ、今後の運営方法等、より地域に根ざし、また質の向上を目指した討議を行っている。ホームとしても、これらの意見を真摯に受け止め、ホームの意義、存在感という点を含め、地域密着に向けた活動を展開、反映させようと取り組んでいる。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 家族来訪時に時間を設け、意見を聴取しようと取り組まれているとともに、利用者個々の生活状況を、各担当者が制作し、定期的な便りとして発行するなど、報告がなされている。これを基とし、より多くの意見を聴取し、それをホームの運営や支援に反映させ、より質の高いホーム作りを目指し、展開されている。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 町内行事への参加、地域ボランティアの受け入れ、冠婚葬祭への出席など、新しいホームでありながらも、地域へ溶け込もうとする取り組みがなされている。さらに地元自治会へ加入しており、今後より一層連携が図れるよう積極的に展開されている。今後、地元住民のみでなく、同業者も含めた連携がなされるよう期待する。

2.　評価結果（詳細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体で「・・・家庭的な環境と地域住民との・・・」と具体的に明示されているとともに、これを基としたホーム独自の理念もつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に、職員全員で基本理念を唱和し、周知を図っているとともに、これを基としたケアの実践に向け取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内で行われる行事への参加や、地域のボランティアの来訪など、積極的に展開しているとともに、地元自治会に入会したことで、より密な関係を構築しようと取り組んでいる。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員全体で行うなど、管理者、職員ともに評価の意義を理解し、これを活用したホーム作りを行おうとする強い姿勢が感じられた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者代表、民生委員、自治会員、行政関係者をメンバーとし、2か月に1回、定期的に開催されている。会議では、ホームの活動状況の報告をはじめ、地域とのかかわりにおける細かい問題など、今後の運営に反映させるため、活発な議論がなされている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要な時は、市役所担当者と協議するなど、連携が図れられている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時の報告をはじめ、担当者が利用者それぞれに向けて定期的な便りを発行するなど、日々の暮らしぶりが報告されている。家族側もこの連絡により日々の様子を理解している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をはじめ、家族来訪時に時間をつくるなど、より多くの意見を取り入れようと取り組んでいる。ここで出された意見は、運営推進会議でも話し合われるなど、ホームの質の向上に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設して1年に満たないが、すでに数回の管理者交代、計画作成担当者の交代が発生している。	○	利用者の安定した生活、利用者との馴染みの関係を構築する上でも、管理者をはじめとする職員の交代が、影響を与えていることは否めない。事業所としても、利用者に影響を最小限に食いとどめるよう取り組むとともに、より良い職場環境が構築されるよう期待する。
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎週行う介護技術研修会をはじめ、毎月勉強会を行うなど、職場内での研修機会を積極的に設け、取り組むとともに、職場外研修に可能な限り参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者の交代が多かったこともあり、同業者との交流機会が持てていない。あわせて、職員個々でも機会を持つことができないでいた。これらの経過を踏まえ、ホームとしても出雲市グループホーム連絡会に参画するなど、同業者との交流を積極的に行うよう取り組み始めたところである。	○	今後、他事業所との連携を図り、勉強会や相互評価を通じて、より質の高いサービスを提供できるよう、取り組みを期待する。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員の訪問をはじめ、事業所見学や体験利用、短期入所など、利用者が徐々に馴染むことができるよう取り組んでいる。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理方法や昔の歌など、普段の生活から、利用者に教えてもらう場面を多く設け、支え合う関係を築いている。また利用者同士での支え合う場面も多くみられるなど、見守りを中心とした援助がなされている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、本人の希望や意向を聞きだすよう努めている。本人の意向把握が困難な場合には、職員の都合にならないよう注意している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族等の要望を聞き、担当者会議、カンファレンス、モニタリング等行い、それを職員間で共有し介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の定期的な見直しが行われているとともに、利用者の状態に変化があった場合や、目標の達成状況など、その都度協議し、見直しを行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設するデイサービスに参加し、交流を行うなど、事業所の特性を活かした支援がなされている。また通院の送迎など、本人、家族等の状況に応じ、必要な支援は柔軟に対応している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のそれぞれの主治医を、そのままかかりつけ医とし、往診などの対応を行っているとともに、事業所の協力医の他、本人・家族等の希望に沿うよう、かかりつけ医でも医療が受けれるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアについて、利用者個々の方針は、本人や家族の意見を尊重し、職員全体で協議され対応されている。ただ事業所としての重度化や終末期ケアに関する総体的な方針はつくられていない。	○	事業所としての方針を、利用者及び家族への説明がなされ、周知を図るという点からも、今後検討を重ね、方針の構築がなされるよう、取り組まれることを期待する。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個々の生活歴や性格の把握がなされ、それぞれに合った声掛け等を行い、プライバシー確保に配慮している。また、記録物などの取扱いについては、法人全体で徹底した取り組みが行われ、適正に取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合にならないよう、利用者一人ひとりのペースに合わせたケア提供が見受けられた。また、職員の聞き取りからも、利用者個々のペースに合わせた支援のありよう、柔軟な対応が窺えた。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて、野菜切りなどの調理や盛り付け、味見など、職員とともに行っている。職員も、利用者とともにテーブルを囲み、楽しみながらの食事を行える雰囲気作りに取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日入浴や、1日おきなどそれぞれの希望や習慣に合わせ実施されている。時間帯についても、本人の希望で入浴できる体制が整っており、夕方から夜間にかけ実施されている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、能力を発揮できるよう役割を見出している。また、同法人内のデイサービスの行事に参加するなど、楽しみごと、気晴らしの支援もなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一時帰宅の付き添いや、屋外への散歩など、外出希望者に対してはそれぞれに合わせ対応している。また外出拒否傾向者に対しては、ホームに閉じこもらない生活に配慮しながら、利用者の意思を尊重し支援している。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関が施錠されることはなく、利用者、家族等とも自由に出入りができる。また、外出傾向者など入居者個々の生活パターンを把握し、安全面での配慮を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得、デイサービス等と共同で、年に2回の避難訓練を行っている。また防災マニュアルも作成され、災害時に対応できるよう、取り組んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は個々にチェックし把握している。利用者それぞれのカロリー制限や咀嚼能力に合わせ柔軟な対応も行っている。また季節を感じる材料や飾りなど目で楽しむ食事にも取り組んでいる。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気の淀みもなく、テレビの音や日光など、利用者に不快感を与えないよう調節している。また、共有空間に生け花や装飾品を置くなど、季節感をより身近に感じることができるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や趣味用品、仏壇など馴染みの品が置かれ、それぞれの空間がつくられている。また家族とも相談し、利用者個々が住み慣れた環境がつくられるよう、ともに取り組んでいる。	○	居室とは、利用者にとって一番安らげる場所であると考える。その点からも、それぞれの生活空間がつくられていることが重要である。 今後の状況変化や、ニーズ変化に伴い、柔軟な対応がなされることを期待する。